斗争ニュース

No.5

坂井発動機製作所争議団
（[illegible]）
1935.5.8

昂奮の渦巻 坂井工場糾弾大演説会 聴衆四百 満場悉く酔ふ

会場内外の空気緊張す

五月七日堀切町尚友館に於て坂井工場糾弾演説会を開催さる可く決定さるゝや争議団は之が準備に直ちに着手した。各自活動部署について会場附近を中心に演説会のビラを張り出すや、坂井工場では之れに対抗するために暴力団を雇入れ片ッ端からビラを剥がすと云ふ驚く可き乱暴を敢てした。争議団は所轄警察署に集会届を提出し且つ管理人の承諾を全て得てビラを張付すのであるから極めて合法的な行動である。然るに坂井工場では吾々の正々堂々の行動を妨害する違法を白昼公然とするに至っては争議団側の憤激を買ふのも無理はない。今や争議団は自らの正当なる利益を防衛するために実力を以て暴力団に対抗せざるべからざるに至った。加之七日朝暴力団は不当馘首になった前職長高本氏の自宅附近を徘徊し高本氏に脅迫的言動を投げかけ且つ本日の演説会を妨害するなどと捨て台詞を浴せるなどの不穏極まる所為に出たのである。これ等の事実について争議団側は直ちに葛飾署に抗議を提し、当日の演説会に於て如何なる事態が発生するも争議団側には全然何らの責任がないといふ峻厳なる警告を発した。かゝる険悪なる空気の中に演説会は開会された。

掲げられたスローガンは

一、解雇絶体反対
一、少年工の酷使虐待絶体反対
一、工場法及健康保険法の完全なる実施
一、臨時工を即時本工にせよ
一、退職手当を制定せよ
一、年二回定期昇給の実施
一、団体交渉権の確立

この外争議団から坂井工場に対する要求書に示された二十二項目が発表された。

争議団長の総括的経過報告

午后七時に開会された。司会者小倉元次郎君の開会の辞に始まり争議団の斗士白石長吉、気賀沢源一、安藤友松、黒沢重一、三浦稜輔の諸君は溢るゝばかりの元気と焔々として燃え上る斗志に、横暴工場主を膺懲せんとする意気物凄しく、中にも徒弟の酷使虐待の体験を徒弟本人たる黒沢、三浦の両君によって目の前に見るが如く手にとる如くに赤裸々にバクロされた時は聴衆は全く憤怒と激情に燃え上ったのである。かくして最后に争議団長伊藤総君はストライキに至った今日までの経過について熱辯を以て報告された。

各労働団体の応援斗士熱辯を揮ふ

坂井工場は労働者を奴隷の如くに酷使虐遇するといふ事は単に全工場の労働者のみの関心事ではない。吾が全東京全日本労働階級の問題であるとして都下各労働団体はこのストライキを徹底的に応援斗争すべく奮起したのである。当夜出演せられた応援斗士諸君は何れも「吸血鬼坂井庄次郎を葬れ」「労働者は団結せよ」「坂井ストライキを支持応援せよ」の雄辯を揮はれ満場は全くチャージングされた状態であった。当夜出演せられた斗士諸君及所属団体名は左の通りである。

一、江東一般労働組合　福本直次君
一、江東地方労働組合協議会　夏川清次君
一、全口労働組合評議会　杉浦順之助君
一、全日本映画演劇従業員組合　菊地利男君
一、全口労働組合自由聯合会　田所茂雄君

区民代表清水君壇上に起つ

坂井工場は堀切町内に於ても嫌はれものである点では有名である。ケチな事では既報の如くお祭の寄附でも学校新築寄附でも、よくこれを証明しておるし、又女中が何故に投身自殺したか？職工徒弟の待遇の酷労さもあまりによく知られておる。それ故区民町民としては今回のストライキは当然過ぎる程当然と見てゐる。かゝる観点から清水君は当日の演説会に区民代表として演壇に起ちかゝる悪工場主は町内のみならず日本の国からも放逐しなければならぬと絶叫して急霰の如き拍手を以て歓呼せられた。

南喜一君の雄辯満場声なし

当夜の花形南喜一君は満堂の拍手の中に登壇した。全君曰く「私は今日まで労働者の利益のために戦って来た。そして数百回のストライキを経験してゐる。然し今回のストライキに於て坂井工場のとれる酷使虐待、不信、非道、暴虐は未だ嘗て経験したことのない程酷劣なものであるといふことを断言し得る」と喝破した。それから今日のストライキに至る経過を述べ、大義名分に反する如何なる態度にも断じて応ずることは出来ず、取締官憲の偏頗不公平に対して警告し、この争議に於ては必勝を期して最后の一人になるまでも戦ひ抜く可き決意と用意のあることを断言し、淳々として情理を説き、少年工の虐遇と工場主の極悪非道を語るに及んで声涙共に下るのであった。満場寂として声を呑み、聴衆は何れも争議団の公明妥当を称揚し、工場主非難の叫びをあげて居った。かくして坂井工場糾弾の大演説会は大成功のうちに散会したのは午后十一時であった。

入会及応援の申込続々！

この演説会に於て感激と悲憤の高調に達した工場労働者の中に五十名程の入会及応援の申込みがあった。応援申込みの中には若し示威運動でも催する場合には先頭に立って旗手をしたいといふ町民もあった。尚入会申込者の中には岡田ゴム、大日本製菓、千住製板、本庄工場の多数労働者があったことは大収獲であった